

第1回 室内試験規格・基準委員会 WG6 (ジオシンセティックス) 議事録

日時	平成19年3月29日 14:00~17:00
場所	地盤工学会本部 3階小会議室
参加者	木幡(室蘭工大)、平井(三井化学産資)、椋木(熊大)、加納(ネオ・ルーフィング)、篠田(複合技術)、竜田(前田工織)、東(前田工織)、中村(苫小牧高専)、平川(東京理科大)、宮田(防大)、矢島(明星大)、榊尾(太陽工業)、原(太陽工業)
欠席者	篠田(鉄道総研) → 連絡受(椋木)

報告

1. 委員会構成の説明(資料1, 2の説明)(木幡)

赤本の改訂に併せて、規格・基準の5年ごとのメンテナンスを恒常的に行えるようにするため、規格・基準委員会の下部委員会をWGに改組された(ASTMタイプにする)。基準部の委員会組織再編で、規格・基準の新規制定や見直しが機動的に行えるようになる。

赤本作成に向けて本委員会が始動。第9編 ジオシンセティックスの試験法が新設され、地盤工学会に初めてジオシンセティックス試験を検討する常設の委員会がWG6として設置された。

WG6のHP作成(木幡→椋木)

・本のタイトルは決定済み

9編のタイトルについては、ジオシンセティックスに関する試験とした方が良い(平井)

基準部会にはJISフォーマットに修正したものを遅くとも今年8月までに提出する。

審議

改定(下線がチーフ)

土とジオテキスタイルの摩擦特性の試験方法(中村・矢島・竜田・篠田)

ジオテキスタイルの垂直方向透水性能試験方法および面内方向透水性能試験方法
(宮田・榊尾・原・加納・椋木・平川)

ジオテキスタイルの見かけの開孔径試験(木幡・平井)

JIS2件のチェック:木幡・平井・椋木

30分間各グループに分かれて打ち合わせをし、下記のことを確認した。

改定:摩擦特性グループ(中村)

4月いっぱいテキスト化

せん断と引き抜きと分けて、それぞれでまとめる。

引用規格

改定：垂直・面内透水性（宮田）

4月末までにテキスト化（榊尾・原：4月末）

ISOの内容を見て加筆の検討（宮田・加納：4月末）

ISOを基準にして英文化（椋木：5月末）

図面お越し（平川：4月末）

垂直・面内装置の概念図をもっと簡素化する。

こと細かい規定は試験法の中ではあえて言わず、原理について述べる。垂直透水係数の評価についてはISOの試験法と比較して解説が必要。

新規：見かけの開孔径（木幡）

まだ公示されていないことが判明したので、新規制定として提出する。乾式（ISO）と湿式（未ISO）を別個の試験法として示す。4月いっぱい起こす（木幡）。ISOを和訳して、それとの整合性をよく検討（平井）。試験法の利用方法や適用方法を明示する。

具体的な作業

- ・木幡 → チーフに JIS フォーマットを転送
- ・新規については英文解説も作らなければならない←ISOの試験法を参考にする。
ISOの資料（日向→椋木→全員）
- ・木幡 → JGS 原案を全員配信

次回の委員会 6月末（JIS フォーマットにして提出）

6・29（金：午前10：30より）

その他

榊尾

これまでの透水試験方法による結果と本基準案による試験結果のデータが違う場合について、メーカー等から問い合わせが来ることが予想される。従前は、各メーカー毎にいろいろな試験法で透水係数を算出している観がある。これについての対応が必要。透水係数のオーダーが下がると困るといふメーカーが出てくるのでは？